

～闘魂記～

「闘魂」…魂をもって闘おうとする気持ち

西東京市立ひばりが丘中学校第3学年

第47号 2024年1月21日(火)

学年目標「自主・自立」

「本気を根気強く」

12/28～1/13 まで行われた第103回全国高校サッカー選手権大会は、前橋育英高校がPK戦の末に流通経済大柏高校を下し、7大会ぶり2度目の優勝を果たしました。その前橋育英高校を率いるのが山田耕介監督（63歳）です。山田監督は長崎県出身で高校時代は島原商業で国見高校サッカー部を有名にした故小嶺忠敏監督の指導を受け、3年時には主将を務め全国優勝を経験しました。その後、恩師の背中を追って現在に至り今年の4月に前橋育英高校サッカー部就任40年を迎えました。2018年には就任から36年目で県勢初の選手権全国制覇に導き、106人のプロ選手を輩出している名将です。

山田監督の朝は早く6時半には学校に到着し、1日の流れや今後のスケジュールを確認します。7時半には朝練へ行き、夕方は16時から練習が始まります。会議などの特別な事情がない限り毎日指導にあたっています。夜、サッカー部の寮には「親元を離れて暮らしている生徒を見守りたい」という思いから週に数日は寮に泊まっています。あるとき取材で「こうした毎日を40年間も続けられる理由」を聞かれました。そのとき山田監督は「何事も本気で向き合わないと選手の本気度は上がってこない。だからこそ本気を出して根気強く向き合っているのが今に繋がっている」と答えています。同世代の指導者が第一線を離れる中、今でもなお熱い、熱い指導を続け、結果を生み出しているのは「本気を根気強くの精神」が山田監督を支えているのだと感じました。

さて、14日(火)の放課後から都立推薦、私立推薦を受ける生徒の中で希望者は面接練習を行っています。ここからさまざまな入試が始まり、ここ1か月が最大の山場となります。入試に対してさまざまな不安や焦りもあるとは思いますが「〇〇高校に合格するんだ!」という覚悟を決め、その本気な気持ちを最後まで根気強く続けていってほしいと思います。応援しています!がんばれ!ひばりが丘中学校3年生!!

1・2年生から受験応援プロジェクトでサプライズプレゼントをもらいました!

20日(月)生徒朝会で各クラスに1・2年生から受験を応援するメッセージをいただきました。1・2年生のみなさんありがとうございました。



「とある先生の日常」

私はK先生の「Today's word」が大好きです。その中でも私は「hang in there」という言葉が大好きです。つらい状態にある人に対して、あと少しそのまま我慢すれば切り抜けられる励ましの言葉として使われます。その言葉に教員の生徒に対するあるべき姿を教えられた気がしたからです。そんなK先生は、生徒たちが進路に向かって自分の足でしっかりと歩んでいけるよう、生徒一人一人に寄り添い続けていきます。

